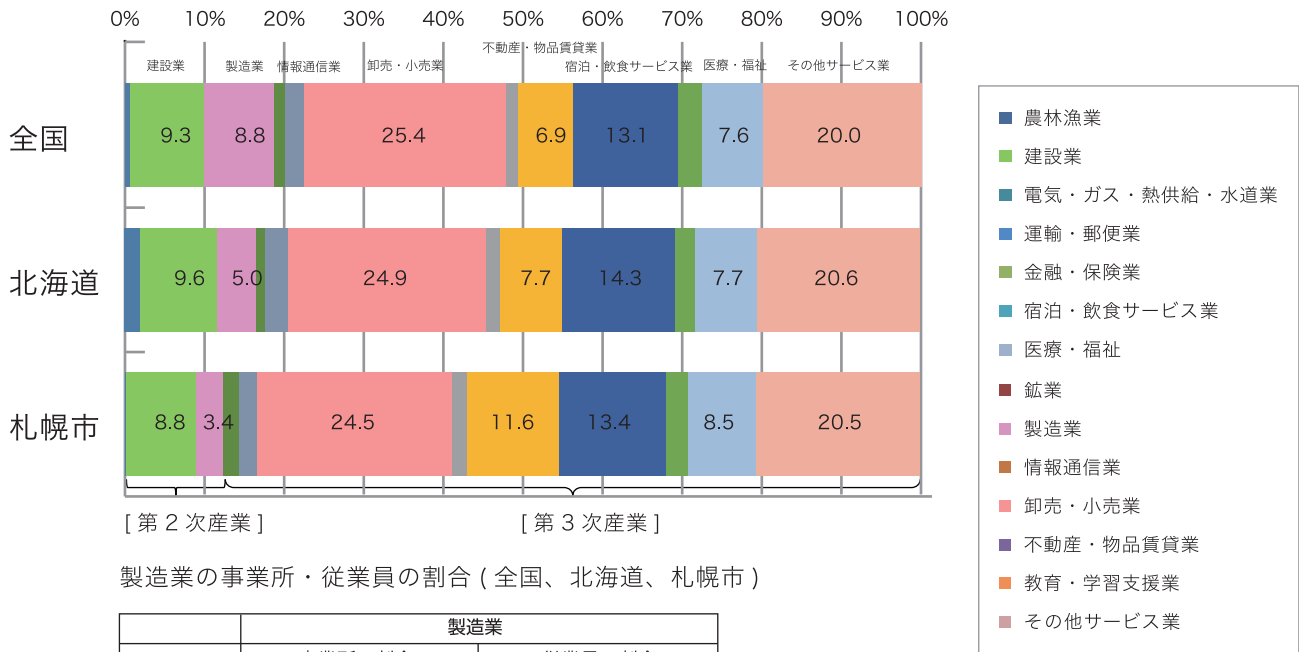


「参考資料」・札幌のものづくり企業を取り巻く現況

[産業構造]

札幌市の産業構造は、製造業などの第2次産業の割合が全国に比べて低く、卸売・小売業や飲食・宿泊サービス業などの第3次産業の割合が高くなっています。但し、製造業は事業所数の割合では3.4%に止まっていますが、従業者数では4.4%を占めています。※図1参照

【図1】事業所の産業別割合（全国、北海道、札幌市）



製造業の事業所・従業員の割合（全国、北海道、札幌市）

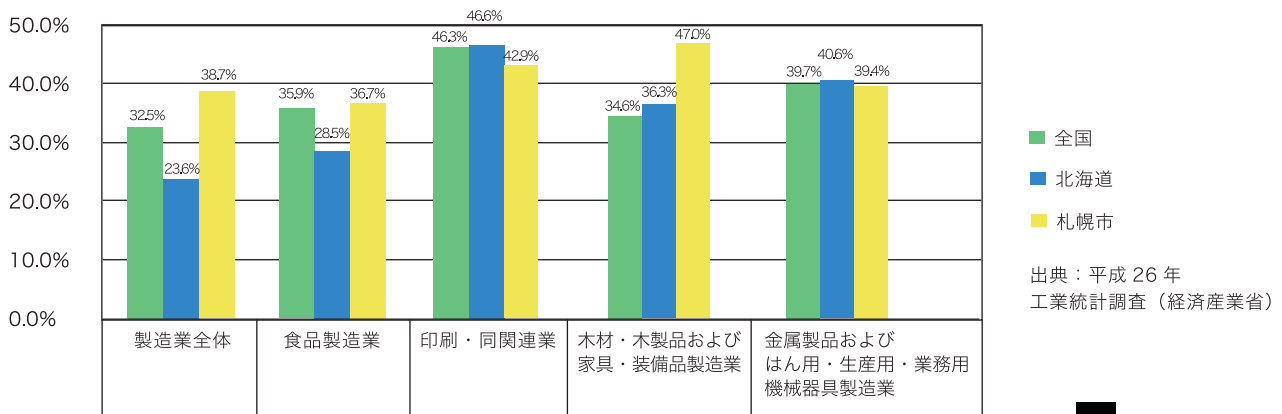
	製造業	
	事業所の割合	従業員の割合
全国	8.8%	16.0%
北海道	5.0%	9.1%
札幌	3.4%	4.4%

出典：総務省統計局「経済センサス基礎調査」（平成26年）

[付加価値]

札幌の製造業の付加価値率は38.7%となっており、全国平均の32.5%、北海道平均の23.6%を上回っています。札幌の製造業の大半は中小企業であり、自社ブランド製品を持っている企業は多くないものの、それぞれが独自の技術力で特色ある製品を生み出しているといえます。※図2参照

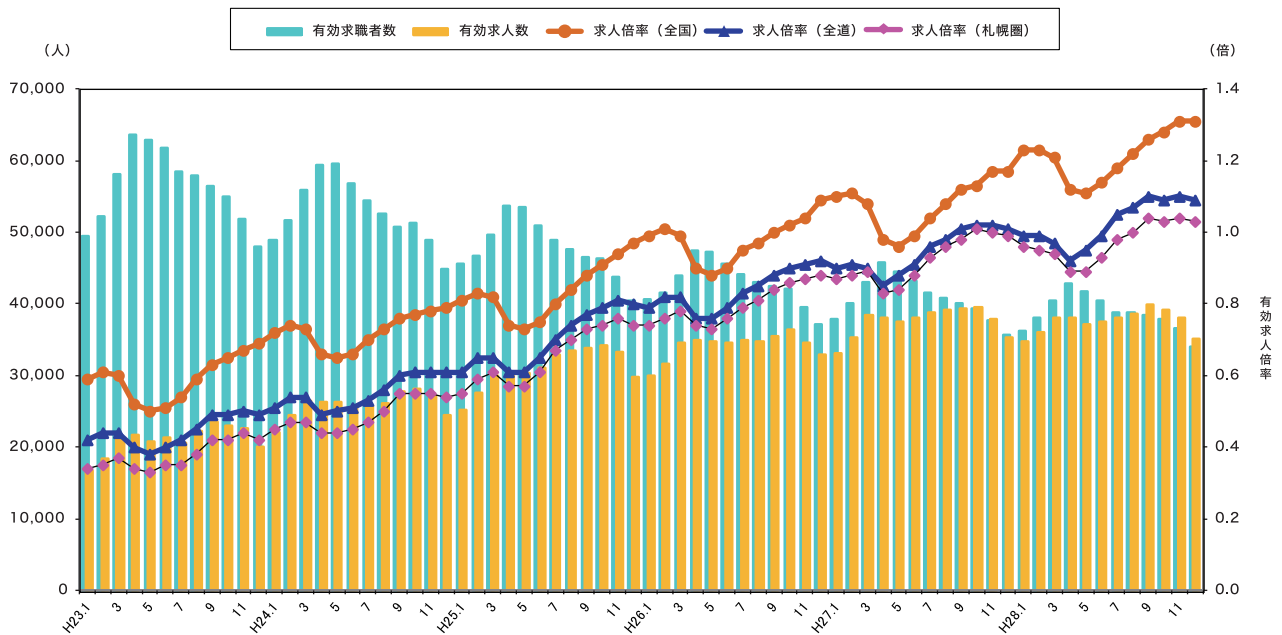
【図2】製造業の付加価値率の比較



[札幌の雇用情勢]

2008年のリーマンショック後、2011年1月に0.34倍にまで落ち込んでいた札幌の有効求人倍率は、景気回復を背景に上昇傾向となっており、2016年12月は1.03倍となっています。※ 図3参照

【図3】 札幌圏の有効求人倍率の推移

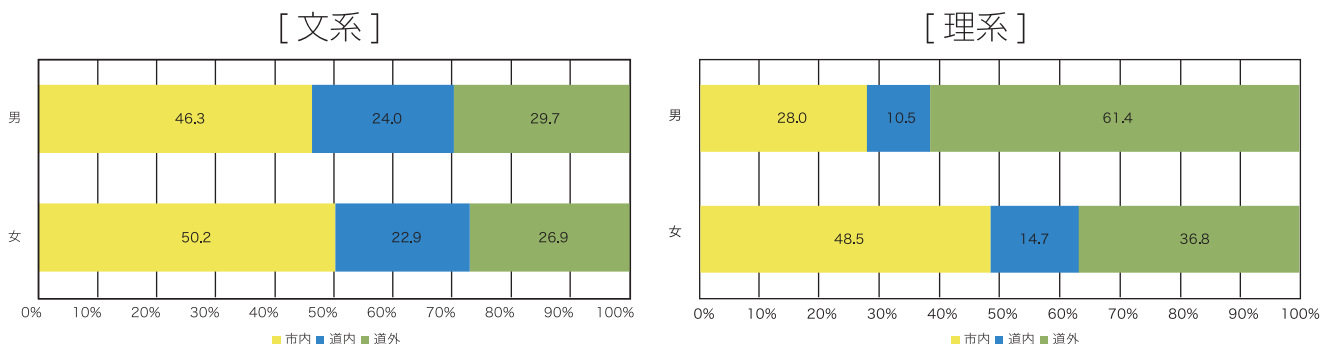


※札幌圏：ここでいう札幌圏とは、ハローワーク札幌、札幌北、札幌東の管轄区域を指し、札幌市、江別市、北広島市、石狩市（浜益区を除く）、当別町、新篠津村のことを言う。

出典：北海道労働局「雇用失業統計」

一方で職種別の倍率を見ると職種によりバラツキが見られ、2016年12月実績で事務的職業が0.35倍と求職者が多くなっていることに比べ、建設関連業が2.92倍、飲食店・介護関連を始めとするサービス業が2.44倍と高く、製造業でも金属加工、溶接・溶断工、製品検査工や整備工・修理工は2.0倍を超えるなど職種・業種によって求人と求職者のミスマッチが生じています。(職種別有効求人倍率：北海道労働局 Labor Letter (2016年12月)による) また、2015年に札幌市が実施した大学生に関するアンケート調査では、全体の70%以上が道内での就職を志向しており、首都圏を希望する割合が比較的多い理系男子でも57.1%が道内への就職を希望しています。しかし、2014年3月の実際の就職地を見ると、文系大学生の約70%は道内に就職していますが、理系男子の道内就職率は38.5%と、希望と異なる結果となっています。※ 図4参照

【図4】 就職地別就職者の割合（文系・理系、男女別）



出典：市内各大学（平成26年3月卒業者の数値）